

応援団の校歌・応援歌練習が唯一の音楽教育でした (※1)

高普第 20 回卒 岡崎 明義 (※2)



昭和 49 年、国立音楽大学音楽学部器楽学科フルート専攻を卒業と同時に、東京を中心全国各地にて、室内楽演奏・オーケストラ演奏・TV出演・新作作品の初演・ジョイントリサイタル等フルート演奏を行う。

又、管楽器講習会講師や吹奏楽指導者として各地で指導活動も行う。昭和 59 年より相馬吹奏楽団常任指揮として地元音楽普及を機会に、相双地区小・中・高校の音楽指導及びコンクール審査等活動もあわせて行って来ました。尚、特に昭和 53 年、地元音楽関係者の方々の協力にて相馬市民

会館にてフルートリサイタルを行った。

現在は、埼玉県川越市の所在地で、尚美学園短期大学・音楽学科、専任講師として演奏やら後進の指導を行っております。内容的には、実技（フルート）レッスン・教職課程の合奏法及び指導法を担当、他に室内楽指導も行っています。又、内弟子より毎年関東各音楽大学に入学させております。尚、短大の仕事として現在、演奏課課長の役職にて、学内演奏会（教授演奏会、学生演奏会、その他学内演奏行事）学外演奏会（現在埼玉県共催東京のプロオーケストラと協演のベートーベン作曲、第九交響曲公演の企画、運営）オペラ公演の企画、運営、また本年は、ベルリン放送交響楽団との協演や、東京都交響楽団との依頼演奏（合唱として）の企画あり。等、演奏会における全てを責任者として運営しております。他に、全国の小学、中学、高校の吹奏楽指導及びコンクール審査、レコーディング等の演奏等仕事としております。

高校の時に、音楽の専門を志し、上京・浪人をして国立音楽大学フルート科に入学。現在、音楽大学にて、高校卒業したばかりの学生と共に音楽の勉強を行っている立場なので、比較的現代っ子に接しておりあまり今昔の感は、無く学生気分が抜け切らずにいます。が、今振り返りますと、23 年前、校章の入った学生服や帽子、そして初めての黒靴を履いての入学式、いつの時代でも入学式は、うきうきするでしょうが、高校は、自分の意志での最初の進路ですので、非常に（異常にかも？）興奮状態だったのが印象的でした。数日後、屋上にて応援団員の生徒リーダーによる校歌・応援歌練習（私の時代の唯一の音楽教育でした。思えば団員一人一人がメロディーがメチャクチャ）ただし、最後には、味のある校歌等に完成する。

当時、個性的な先生が多く、一人一人仇名があった様でした。雨の日は長靴を履いたままの授業（先生も生徒も）早飯に対するユーモアな一言（4 時限目担当の先生）、文化祭における各クラスの個性ある仮装の市内パレード等、走馬灯の様に思い出があり、それが現在の自分のベーシックを形成している事を誇りに思っています。

(※1) 創立 90 周年記念誌『紅の旗』(1988(昭和 63)年 9 月 2 日発行)

「今こそ伝えたい、希望と勇気を」==OBから若駒への熱きメッセージ==より。

(※2) 昭和 43 (1968) 年卒、中村出身

(転記&※脚注 村山)